



ミクロと



マクロ

川崎ゆきお

広い世界を見ましようと言うが、宇宙の果てまで行くと、行き過ぎだろう。狭い世界で生きている人と言っても、顕微鏡で見ないと見えないところで暮らしているわけではない。程度の問題だろう。では、どの範囲が広い、狭いだろうか。

それは人と関係しているのかもしれない。人が住んでいない場所はあまり考慮されないが、資源などあれば別だ。人が役立つからだ。そのため、人と絡んでの範囲だろう。

「視野が狭いとよく人に言われますが、魚の目のように、つまり魚眼レンズのような目が必要なんでしょうかねえ」

「昆虫も広いと言いますよ」

「じゃ、視野の広い人は魚顔、昆虫顔の人なんでしょうなあ」

「それは違うと思いますが、物理的に見える視野の広さではなく、認識の広さでしょう」

「そんなこと分かってますよ。言われなくても」

「はいはい」

「ただねえ、広いものを見ると落ち着きません。居心地が悪くなる。広い場所で景色を見るのは好きですよ。しかし、そんなところで住みたくはない。それに広いと目が眩みそうになりましてねえ。目のピントがおかしくなる。崖から下を見たときがそうです。足元の岩と下の谷川とはかなり離れているじゃありませんか。それを同時に見てご覧なさい、落ちますよ。遠いものだけを見ている場合はどうもありません。近くだけを見ている場合もね。近くと遠くを交互に見るとだめです。まあ、同時に一緒には見えませんがね」

「だから、認識の話で、目のピントの話じゃないでしょ」

「そんなことは承知していますよ。しかし、それが関係するんですよ」

「狭い世界と言っても、先ほどあなたが言われたように程度がありますねえ。顕微鏡でしか見えない世界で暮らしているわけがありませんから」

「そうでしょ。しかし、顕微鏡の世界と、広い世界とは同じリズムなんです。同じ振る舞いなんです。同じパターンなんです」

「神は細部に宿ると言いますねえ」

「神は大きいですよ。広いですよ。大きな世界です」

「それが細部に宿るといいますから、小さな世界にも大きな世界があるという意味でしょ」

「宿っているのを見たことはないが、それ以前に神なんて見えないですからなあ」

「はいはい」

「人間になりかけつつある猿の時代なら、神が宿るかもしれませんが。あれはチャンスです。いや、そうじゃなく、神が宿ったから猿が人へ進化したんだとも言える」

「宇宙人が入り込んだという説もありますよ」

「だから、そういう大きな話、広い話程狭くなったりします」

「スケールが大きすぎるからですか」

「今までの進化の歴史観とは異なるからです。これは踏み外しです。その踏み外しが狭いということですか。狭いところに落ちると」

「よく分かりませんが、小さな説ということですね」

「まあ、そういう話は人の営みに、今日明日影響を与えませから遠い世界です。広い世界ではなく、遠くの」

「いろいろな解釈があるんですね」

「はい、逆転します。白が黒になったりね。広いものが狭くなったり、その逆もね」

「それは珍しい説ですねえ」

「ただの思いつきですよ。でまかせです」

「はい、参考にしません」

了